

## 第 12 回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会 議事要旨

1. 日時：平成 29 年 10 月 23 日（月）14:00～16:00
2. 場所：中央合同庁舎 8 号館 14 階 1422 会議室
3. 出席者
  - (1) 構成員  
平澤座長、伊集院委員、長岡委員、西澤委員
  - (2) 内閣府  
北村沖縄振興局長、馬場審議官、水野総務課長、水本次長、重永事業振興室長、山下専門官、田巻専門官
4. 議事要旨
  - 議事 1 平成 30 年度概算要求について
  - 議事 2 平成 30 年度事業計画作成に向けた意見について
  - 議事 3 その他

事務局より資料について説明がされた後、構成員から以下のような主な意見があった。

（研究資金について）

- PI 一人当たりの研究費は、OIST が模範とするカリフォルニア工科大学に匹敵する水準にある。開学 10 年後の見直しに向け、経常経費がどのくらいの水準になるのが適切であるか検討を深めていく必要がある。
- 寄附金等の収入はまだ少ないが、開学 10 年後の見直しに向け、どの程度まで増やすかといった目標を持つことは重要である。

（教育研究について）

- OIST への財政支援は東京工業大学や広島大学等のセカンドティアと同程度であり、開学から 6 年が経過しているということからも、しっかりと見える形での成果が求められる。
- OIST の研究活動の実績（例えば、論文数やインパクトファクターの高いジャーナルへの掲載数など）や卒業生の就職先等のキャリア形成といった OIST の成果を積極的に発信することが、OIST の評価につながることであり重要である。
- OIST の知名度向上を図るため、来年予定されている第一回目の卒業式を活用する方策を検討する必要がある。

（規模拡充について）

- 規模拡充に伴い、学長が研究・教育と経営の両方に責任を持つのではなく、プロボスト

のような教員の監督に責任を持つポストを設け担務する体制を整備する必要がある。

- テクノロジーの分野は非常に速い速度で動いており、社会にインパクトを与えるような領域が急速に広がっている。今後の規模拡充に当たっては、こうした現象を見据えておくことが重要である。
- 現状ではレベルも高く非常にユニークなP Iを獲得できている。5年毎に実施されるPIの評価も厳格に実施されており、レベルを維持するために非常に重要な新陳代謝もしっかりと図られている。

(共同研究・産学連携について)

- 特許権の申請数等は多くはない。企業との共同研究を拡充するのであれば、それら取組を拡大していくのか、もしくは、拡大しないのであれば、戦略的に選択と集中をしてOISTにしかない強みを構築していく必要がある。
- インキュベーターは、施設を整備するだけでなく、どのようなサービスを提供するかというソフト面が重要である。
- 日本の大学発ベンチャーは、ここ1~2年で急速にレベルを上げている。産学連携活動を拡充するのであれば、我が国の最前線で起こっていることも十分に把握する必要がある。

以上